

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101634		
法人名	一般社団法人 高知市労働事業協会		
事業所名	グループホーム やさしい里		
所在地	高知県高知市朝倉己771-1		
自己評価作成日	令和3年6月30日	評価結果 市町村受理日	令和3年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所の理念である「人間の尊厳」の大切さを基本に、「生きることの喜びを実感できる暮らし」をして頂けるよう努めている。</p> <p>利用者の高齢化に伴い、身体レベルの低下はあるものの、できることは自分自身で行って頂くことで残存機能の低下を防ぎ、現状維持ができる支援を心がけるようにしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&Jigvosvg
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年8月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、県木材を多く使用した温もりのある2階建の2ユニットで、デイサービスセンターを併設し、近くには高齢者住宅のある閑静な住宅地にある。</p> <p>理念では、利用者のプライバシー保護と尊厳を一番に掲げ、職員全員が理念を実践して、利用者のケアに取り組んでいる。</p> <p>併設のデイサービスセンターには大浴室があり、利用者全員が入浴を楽しんでいる。コロナ禍の影響で地域住民との交流が難しいのが現状だが、利用者は職員と一緒にドライブで季節の花見に行ったりしており、外出支援にも配慮した取り組みを行っている。</p> <p>5年以上勤務のベテラン職員がほとんどであり、管理者、職員同士の関係も良好で、家庭的な雰囲気にも包まれた事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳、安全で衛生的な生活環境、能力の発揮、適切な医療、家族との交流、個人情報への厳守、一市民としての権利擁護、拘束のない暮らし、差別のないサービス等の項目を理念に掲げ、職員に周知徹底を図り、ケアでの実践に努めている。	個人の尊重と尊厳を含む8項目の運営理念を日々のケアに反映できるようにするため、職員会で利用者への言葉かけが命令口調になっていないか等を注意、点検する振り返りを行い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段であれば、季節ごとに併設のデイサービスセンターの利用者、近隣住民との相互訪問や、近くの託児所、子供会との交流を行っている。地域の種々の活動には職員も参加して、地域の一員としての役割を担っている。	昨年までは、近くの託児所の子ども達と七夕かざりの交流を行う等の交流があったが、コロナ禍で中止している。併設のデイサービスセンター利用者との交流も控えているが、近隣住民とは、散歩等の際に声かけや挨拶があり、良好な関係が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣教育施設等の福祉施設見学や職場体験の場として、積極的に利用してもらっている。そうした中で、地域に認知症の理解を深めてもらい、事業の大切さをアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域市民会館館長、地域包括支援センター職員を交え、詳細な活動報告を行い、施設運営に助言・意見を得ていたが、コロナ禍で実施できていない。	家族や地域市民館館長、地域包括支援センター職員等の参加で2ヶ月に一度開催していたが、市からの連絡もあり、昨年10月を最後に運営推進会議を行っていない。運営推進会議の再開や代替方法などについて、市担当者に相談していくよう助言した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段は、地域包括支援センターや市福祉課等とは、入所に関する相談等で連携をするようにしている。また地域のグループホーム連絡会を通して、定期的な情報交換や実情を行政に伝えている。	コロナ禍で、市からの通知等での電話連絡は取り合っているが、回数は減っている。西部地域グループホーム連絡会も今年2月を最後に行われていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニット職員の代表、事業者、管理者で身体拘束適正化委員会を開催し、ケアについての話し合いや注意事項等の伝達を行うとともに、内外の研修受講により、職員全員が理解を深めている。	身体拘束適正化委員会を運営推進会議と合わせて行っていたが、運営推進会議がコロナ禍で中止となったため、外部委員を除く職員と管理者、代表理事で行っている。玄関は午後9時に施錠し、午前5時に開けている。外出傾向の利用者はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルをもとに、実践の取り組みをしている。また内外の研修受講により、虐待の防止について職員全員が理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について内部研修を行い、職員の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前には家族、本人との面接、事業所の見学を行い、重要事項についても十分説明し、理解と納得を得て契約を締結している。解約についても、医療機関や他の福祉施設、介護支援専門員等との協議を行い、介護、医療の継続が図れるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時等で、利用者には日々のコミュニケーションの中で生活上の要望等を聞き、ケアに反映できるように心掛けている。	家族会は昨年12月を最後に実施できていない。家族の面会は窓ごしでは可能だが、ほとんどは電話や近況報告書等書面でのやり取りになっている。事業所独自の家族アンケートを実施し、意見や要望を把握するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会等で職員から出された意見、ケアについての提案等を検討し、改善に努めている。	毎月の職員会では、日々のケアの振り返りや工夫を話し合い、職員は管理者に相談している。職場はベテラン職員も多く、管理者と職員が相談や意見交換が出来やすい関係づくりができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にやる気を起こさせ、ケアの質を向上させるため、介護福祉士等の資格取得を勧めている。また、資格取得者には資格手当を支給している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り職員が希望する研修会に参加ができるよう配慮しており、参加者による伝達講習を通じて職員全員での共有化を図っている。また、年間研修計画を立て、内部研修会も行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市西部地区グループホーム連絡会に参加し、ネットワークを形成している。行政機関も加わって意見交換を行い、他の事業所の活動内容を参考にしながら、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族との入所前面談時に本人の生育歴、趣味、病歴等を詳しく収集するように努めている。職員全員で情報共有をして、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を丁寧に聞き取り、介護支援専門員等との連携を密にしてサービス状況の把握に努め、早期に支援内容が確定できるよう心掛けている。経済面での相談にも応じ、行政機関への働きかけも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の状況や意向を踏まえ、サービス内容を検討している。また医療機関の紹介、受診の支援のほか、生活保護受給等に向けた経済的な支援を含めた対応を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が一番輝いていた頃の情報をもとに会話をしている。特に、本人の昔話を傾聴しながら、利用者同士や職員との信頼関係を築くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも気軽に相談できるようにし、認知症や体調等に関する情報提供を行い、家族、職員が共通認識を持ち、利用者を共に支えていく立場であることを理解し合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買い物行った際には、利用者の思い出の場所や自宅周辺を意識的に通ったりするように努めており、馴染みの関係が途切れないようにしている。	コロナ禍で、馴染みの人の多い併設のデイサービスセンター利用者との交流ができない状況になっている。ドライブに行ったときには利用者の思い出の場所や、自宅周辺を通るように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状態により食卓の席を変更したり、写真撮影、買い物などの外出等でも、お互いの関わり合いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、本人、家族の意向を尊重し、他施設や医療機関等で利用者の状況に応じたサービスが受けられるよう対応し、その後の様子も家族や施設等から情報提供を受けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思い等を、日々のコミュニケーションの中で、一人ひとり把握できるように努めている。	日々のケアの中で、利用者の思いや意向を聞いて、介護支援専門員に連絡し、生活全般の解決すべき課題集約をしているが、職員が記載する個別記録では、思いや意向の経過が分かる記載に至っていない。	利用者の思いや意向、希望等聞く項目を一つの様式にまとめて変化の経緯がわかる記録とし、ケアプランに反映していくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用者と家族から本人の育成歴やこれまでのサービス利用等について聞き取りをしたり、費用に応じて介護支援専門員や医療機関から情報提供を受けるなど、幅広く総合的な状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて一人ひとりの身体状況やできること、できないことを把握し、その人らしい支援につながるようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員、職員、管理者で担当者会を開き、利用者、家族、職員の意見を反映する介護計画を作成している。計画は家族の承認後に個人日誌に添付し、職員が共有している。また、3ヶ月毎に見直すとともに、状態に変化があった際には、随時見直しを行っている。	3ヶ月毎に職員全員でカンファレンスを行い、アセスメントとモニタリングのうえ、介護計画の見直しを行っている。家族には電話で要望や意見を聞き、利用者の状態に応じて随時見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌により職員全員が情報を共有し、より良い介護の実践や計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスセンターとの連携により、利用者同士が相互訪問し、談笑するなど馴染みの方との楽しい時間を過ごしてもらえるよう、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行政機関等の協力や、小学生の訪問を受けるなど利用者に地域の中での暮らしを楽しんでもらうように支援しているが、コロナ禍で中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医の受診をしている。協力医の訪問診療もあるが、通院は原則家族が付き添い、受診時には生活状況を記載した書面を手渡し、受診結果欄に主治医からの指示等を記載してもらいファイル化して、職員で共有している。	月2回の協力医の往診を利用者11名が利用している。外来受診は家族が付き添い、医師に受診結果を記載してもらって職員で共有している。緊急時には、協力医の指示を受け職員が付き添って病院を受診している。歯科医の往診も月1回あり、受診結果は口腔ケアに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を報告し、相談をしながら、利用者の健康管理に努めている。医療機関との連携等を含めて、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、健康管理表で日頃の様子や状態を病院に情報提供している。職員が面会に行った場合でも、医療機関との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針について説明し、同意を得ている。利用者の状況に応じて、主治医や看護師の助言等をもらい、家族と十分に話し合い、その人らしい終末期を迎えられるよう支援している。	契約時に終末期の対応指針を説明し、要望があれば、同意を得たうえで、協力医との医療連携体制を取って看取りを実施しているが、平成30年度に1件あってからは実績はない。要望があれば、検討して看取りの支援を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを策定するとともに、AEDの取り扱い訓練や、応急手当の初期対応の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火に関しては年2回、災害等に関しては年1回以上の訓練を実施している。ユニット毎に避難方法を定めて、消防署の指導、助言を受けている。	併設のデイサービスセンターと合同で、年2回消防訓練を実施し、うち1回は消防署員の立会を得ている。避難訓練は、デイサービスセンターと合同で全員参加で実施している。コロナ禍もあり、近隣住民の参加は得られていない。備蓄品は3日分がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間の尊厳をケアの基本方針として、利用者に羞恥心を感じさせないように努めている。プライバシー保護では入室前に必ずノックをし、事業所便り等への写真掲載には、本人、家族の同意を得るようにして、個人情報に十分配慮している。	運営理念の一番に個人の尊厳とプライバシー保護を掲げ、職員に周知徹底している。排泄介助には、個室のドアを必ず閉めて対応し、トイレ誘導にもプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるよう、日常のコミュニケーションの中で信頼関係を構築し、日ごろ何を要望、要求しているかに留意して、自己決定ができる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重するように心掛けている。入浴や食事では、特にペースを合わせたサービスの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、本人の希望に沿って支援している。理美容は本人の希望する店に行ったり、訪問美容を活用したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設のデイサービスセンター調理員が食事を調理し、事業所で盛り付けをしている。利用者は下ごしらえや下膳等を行い、メニューの希望を伝えたりして、食事を楽しみにしている。職員は利用者を支援し、一緒に食べて和やかな雰囲気作りに努めている。	昼食は日曜日を除き、併設デイサービスセンターで調理し、その他は事業所で調理している。季節行事に応じた献立に配慮し、利用者の希望を取り入れ、利用者の出来ることは一緒にいき、職員と一緒に食事を楽しんでいる。刻み食やとろみ食の利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、毎日の摂取量をチェックし、食事量については、栄養士から専門的アドバイスを定期的にもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。歯科医の訪問診療時には、口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度が高い利用者はオムツを使用し、布パンツ、紙パンツを使用の利用者は、トイレで排泄をしている。一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。	利用者の部屋には、トイレがあり、一人ひとりの排泄パターンに沿った支援をしている。夜間は、巡回の見廻り時にサインを見逃さないようにして、排泄支援をしている。おむつ使用は1名、夜間のみの使用が3名となっている。布パンツは1名で、その他はパットを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄状況を確認し、水分、食事、運動を日常生活で関連づけ、便秘予防に努めている。数日排便が見られないときは、服薬やマッサージで促すようにしているが、場合によっては医療機関に相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設のデイサービスセンターの浴室も利用し、利用者の希望に沿って、いつでも入浴できる体制にしている。利用者の入浴拒否があっても、日時をずらす等の工夫をして入浴につなげている。	併設のデイサービスセンターの大浴室を全員が希望して利用している。同性支援を希望する利用者には配慮をし、入浴拒否する1名には無理じいせず、日時をずらし入浴を支援している。利用者全員が、週3日入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気があっても昼寝を我慢してしまう利用者もおり、運動を取り入れるなど、日中の生活習慣を大切にして、夜間は安心して眠れるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たな服薬の場合には、その薬の目的、副作用等について職員全員に周知するとともに、食事毎の投薬準備や服薬の確認を行い、服薬管理の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて、食事や洗濯物の片づけ等をしてもらっている。行事等で踊りや歌を披露できる機会を設けたり、外出が好きな利用者には、ドライブに誘ったりと、生活に張りができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、事業所周辺を散歩したり、車いすの利用者も一緒に出て、出来るだけ外気に触れ、季節を感じてもらっている。また、希望に応じて買い物、季節の花見に出かけているが、コロナ禍でかなり制限されている。	事業所の周辺や近くの公園の散歩には、日常的に出かけている。コロナ禍により外出支援は減っているが、ドライブで季節の花を見に行く等、人出に配慮した支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に事業所で預かっているが、買い物や外食の際には、預り金を使って自身で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には居室に電話を引くことができるようにしている。事業所の電話はいつでも利用することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	県内産の木材を使用した建屋にすることで、家庭的な雰囲気を感じてもらえるようにしている。季節の花を活けたり、季節行事の飾りつけ等を行い、季節が感じられ、落ち着いた暮らしの実現に努めている。また室内の温度、湿度管理をし、利用者が快適に過ごせるようにしている。	木の温もりのある内装で、食堂兼居間には、季節の行事等の飾り付けや花が活けられ、階段の壁には行事の写真が貼られている。室内の温度や湿度を調整し、利用者が居心地よく快適に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小溜りや休憩所等を作り、利用者が一人になれたり、お互いが談笑できる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に使い慣れた小物や家具、家族写真等を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるようにしている。また、室内の動線に配慮した配置をし、地震対策として家具の高さにも留意している。	個室の入り口には暖簾がかけられ、トイレとベット、エアコンを備え付けている。自宅から持参した家具や植木鉢を並べ鑑賞する等、一人ひとりが居心地よく過ごせるようにしている。車いすの利用者には、移動時の動線にも配慮している。事業所の貸出家具を利用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりを設置し、段差を解消、カーベットのすべり止め、扉は引き戸とする等、利用者の安全対策に配慮している。また、暖簾の柄を個別にすることで、自室の場所を覚えてもらう等の工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳、安全で衛生的な生活環境、能力の発揮、適切な医療、家族との交流、個人情報への厳守、一市民としての権利擁護、拘束のない暮らし、差別のないサービス等の項目を理念に掲げ、職員に周知徹底を図り、ケアでの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段であれば、季節ごとに併設のデイサービスセンターの利用者、近隣住民との相互訪問や、近くの託児所、子供会との交流を行っている。地域の種々の活動には職員も参加して、地域の一員としての役割を担っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣教育施設等の福祉施設見学や職場体験の場として、積極的に利用してもらっている。そうした中で、地域に認知症の理解を深めてもらい、事業の大切さをアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域市民会館館長、地域包括支援センター職員を交え、詳細な活動報告を行い、施設運営に助言・意見を得ていたが、コロナ禍で実施できていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段は、地域包括支援センターや市福祉課等とは、入所に関する相談等で連携をするようにしている。また地域のグループホーム連絡会を通して、定期的な情報交換や実情を行政に伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニット職員の代表、事業者、管理者で身体拘束適正化委員会を開催し、ケアについての話し合いや注意事項等の伝達を行うとともに、内外の研修受講により、職員全員が理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルをもとに、実践の取り組みをしている。また内外の研修受講により、虐待の防止について職員全員が理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について内部研修を行い、職員の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前には家族、本人との面接、事業所の見学を行い、重要事項についても十分説明し、理解と納得を得て契約を締結している。解約についても、医療機関や他の福祉施設、介護支援専門員等との協議を行い、介護、医療の継続が図れるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時等で、利用者には日々のコミュニケーションの中で生活上の要望等を聞き、ケアに反映できるように心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会等で職員から出された意見、ケアについての提案等を検討し、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にやる気を起こさせ、ケアの質を向上させるため、介護福祉士等の資格取得を勧めている。また、資格取得者には資格手当を支給している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り職員が希望する研修会に参加ができるよう配慮しており、参加者による伝達講習を通じて職員全員での共有化を図っている。また、年間研修計画を立て、内部研修会も行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市西部地区グループホーム連絡会に参加し、ネットワークを形成している。行政機関も加わって意見交換を行い、他の事業所の活動内容を参考にしながら、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族との入所前面談時に本人の生育歴、趣味、病歴等を詳しく収集するように努めている。職員全員で情報共有をして、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を丁寧に聞き取り、介護支援専門員等との連携を密にしてサービス状況の把握に努め、早期に支援内容が確定できるよう心掛けている。経済面での相談にも応じ、行政機関への働きかけも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の状況や意向を踏まえ、サービス内容を検討している。また医療機関の紹介、受診の支援のほか、生活保護受給等に向けた経済的な支援を含めた対応を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が一番輝いていた頃の情報をもとに会話をしている。特に、本人の昔話を傾聴しながら、利用者同士や職員との信頼関係を築くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも気軽に相談できるようにし、認知症や体調等に関する情報提供を行い、家族、職員が共通認識を持ち、利用者を共に支えていく立場であることを理解し合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買い物行った際には、利用者の思い出の場所や自宅周辺を意識的に通ったりするように努めており、馴染みの関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状態により食卓の席を変更したり、写真撮影、買い物などの外出等でも、お互いの関わり合いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、本人、家族の意向を尊重し、他施設や医療機関等で利用者の状況に応じたサービスが受けられるよう対応し、その後の様子も家族や施設等から情報提供を受けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思い等を、日々のコミュニケーションの中で、一人ひとり把握できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用者と家族から本人の育成歴やこれまでのサービス利用等について聞き取りをしたり、費用に応じて介護支援専門員や医療機関から情報提供を受けるなど、幅広く総合的な状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて一人ひとりの身体状況やできること、できないことを把握し、その人らしい支援につながるようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員、職員、管理者で担当者会を開き、利用者、家族、職員の意見を反映する介護計画を作成している。計画は家族の承認後に個人日誌に添付し、職員が共有している。また、3ヶ月毎に見直すとともに、状態に変化があった際には、随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌により職員全員が情報を共有し、より良い介護の実践や計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスセンターとの連携により、利用者同士が相互訪問し、談笑するなど馴染みの方との楽しい時間を過ごしてもらえるよう、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行政機関等の協力や、小学生の訪問を受けるなど利用者に地域の中での暮らしを楽しんでもらうように支援しているが、コロナ禍で中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医の受診をしている。協力医の訪問診療もあるが、通院は原則家族が付き添い、受診時には生活状況を記載した書面を手渡し、受診結果欄に主治医からの指示等を記載してもらいファイル化して、職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を報告し、相談をしながら、利用者の健康管理に努めている。医療機関との連携等を含めて、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、健康管理表で日頃の様子や状態を病院に情報提供している。職員が面会に行った場合でも、医療機関との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針について説明し、同意を得ている。利用者の状況に応じて、主治医や看護師の助言等をもらい、家族と十分に話し合い、その人らしい終末期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを策定するとともに、AEDの取り扱い訓練や、応急手当の初期対応の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火に関しては年2回、災害等に関しては年1回以上の訓練を実施している。ユニット毎に避難方法を定めて、消防署の指導、助言を受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間の尊厳をケアの基本方針として、利用者に羞恥心を感じさせないように努めている。プライバシー保護では入室前に必ずノックをし、事業所便り等への写真掲載には、本人、家族の同意を得るようにして、個人情報に十分配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるよう、日常のコミュニケーションの中で信頼関係を構築し、日ごろ何を要望、要求しているかに留意して、自己決定ができる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重するように心掛けている。入浴や食事では、特にペースを合わせたサービスの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、本人の希望に沿って支援している。理美容は本人の希望する店に行ったり、訪問美容を活用したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設のデイサービスセンター調理員が食事を調理し、事業所で盛り付けをしている。利用者は下ごしらえや下膳等を行い、メニューの希望を伝えたりして、食事を楽しみにしている。職員は利用者を支援し、一緒に食べて和やかな雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、毎日の摂取量をチェックし、食事量については、栄養士から専門的アドバイスを定期的にもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。歯科医の訪問診療時には、口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度が高い利用者はオムツを使用し、布パンツ、紙パンツを使用の利用者は、トイレで排泄をしている。一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄状況を確認し、水分、食事、運動を日常生活で関連づけ、便秘予防に努めている。数日排便が見られないときは、服薬やマッサージで促すようにしているが、場合によっては医療機関に相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設のデイサービスセンターの浴室も利用し、利用者の希望に沿って、いつでも入浴できる体制にしている。利用者の入浴拒否があっても、日時をずらす等の工夫をして入浴につなげている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気があっても昼寝を我慢してしまう利用者もおり、運動を取り入れるなど、日中の生活習慣を大切にして、夜間は安心して眠れるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たな服薬の場合には、その薬の目的、副作用等について職員全員に周知するとともに、食事毎の投薬準備や服薬の確認を行い、服薬管理の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて、食事や洗濯物の片づけ等をしてもらっている。行事等で踊りや歌を披露できる機会を設けたり、外出が好きな利用者には、ドライブに誘ったりと、生活に張りができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、事業所周辺を散歩したり、車いすの利用者も一緒に出て、出来るだけ外気に触れ、季節を感じてもらっている。また、希望に応じて買い物、季節の花見に出かけているが、コロナ禍でかなり制限されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に事業所で預かっているが、買い物や外食の際には、預り金を使って自身で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には居室に電話を引くことができるようにしている。事業所の電話はいつでも利用することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	県内産の木材を使用した建屋にすることで、家庭的な雰囲気を感じてもらえるようにしている。季節の花を活けたり、季節行事の飾りつけ等を行い、季節が感じられ、落ち着いた暮らしの実現に努めている。また室内の温度、湿度管理をし、利用者が快適に過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小溜りや休憩所等を作り、利用者が一人になれたり、お互いが談笑できる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に使い慣れた小物や家具、家族写真等を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるようにしている。また、室内の動線に配慮した配置をし、地震対策として家具の高さにも留意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりを設置し、段差を解消、カーペットのすべり止め、扉は引き戸とする等、利用者の安全対策に配慮している。また、暖簾の柄を個別にすることで、自室の場所を覚えてもらう等の工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				